

◎所得に対する租税に関する二重課税の回避及び脱税の防止
 のための日本国とアイルランドとの間の条約

(略称) アイルランドとの租税(所得)条約

昭和四十九年 一月十八日 東京で署名
 昭和四十九年 五月二十七日 国会承認
 昭和四十九年 十月二十九日 批准の閣議決定
 昭和四十九年 十一月四日 ダブリンで批准書交換
 昭和四十九年 十一月二十日 公布及び告示
 (条約第一二二号)
 昭和四十九年 十二月四日 効力発生

目次

ページ

前文.....三五五

第一条 人的範囲.....三五五

第二条 対象となる租税.....三五五

第三条 定義.....三五六

第四条 締約国の居住者.....三五八

第五条 租税軽減の認定.....三五八

第六条 恒久的施設.....三五九

第七条	不動産に係る所得	三六一
第八条	企業又は恒久的施設の利得	三六二
第九条	船舶又は航空機に係る利得	三六三
第十条	特殊関係企業に係る利得	三六四
第十一条	配当	三六四
第十二条	利子	三六六
第十三条	使用料	三六六
第十四条	譲渡収益	三六九
第十五条	自由職業の所得	三七〇
第十六条	勤務に対する報酬	三七〇
第十七条	役員の報酬	三七一
第十八条	芸能人等の所得	三七一
第十九条	退職年金	三七二
第二十条	公務遂行に係る報酬	三七二
第二十一条	学生又は事業修習者への給付金	三七三
第二十二条	教育又は研究に係る報酬	三七四
第二十三条	その他の所得	三七四

第二十四条	二重課税の排除方法	三七五
第二十五条	個人に対する人的控除、救済及び軽減	三七七
第二十六条	内国民待遇	三七七
第二十七条	不服申立て及び両国当局間の協議	三七八
第二十八条	情報の交換	三七九
第二十九条	外交官又は領事官の特権との関係	三八〇
第三十条	批准、効力発生及び適用の開始時期	三八〇
第三十一条	条約の終了及び適用の終了時期	三八一
末	文	三八二
○条約第十七条及び第二十条に関する交換公文		三八三
アイルランド側書簡		三八三
条約第十七条及び第二十条の規定の解釈		三八三
日本側書簡		三八五
○条約第二十四条に関する交換公文		三八六
アイルランド側書簡		三八六
条約第二十四条の規定の解釈		三八六
日本側書簡		三八八

所得に対する租税に関する二重課税の回避及び脱税の防止のための日本国とアイルランドとの間の条約

日本国政府及びアイルランド政府は、
所得に対する租税に関し、二重課税を回避し及び脱税を防止するための条約を締結することを希望して、
次のとおり協定した。

第一条

人的範囲
この条約は、一方又は双方の締約国の居住者である者に適用する。

第二条

1 この条約の対象である租税は、次のものとする。
アイルランドにおいては、

- (a) 所得税（付加税を含む）
- (ii) 法人利潤税
- (b) 日本国においては、
 - (i) 所得税
 - (ii) 法人税
 - (iii) 住民税

2 この条約は、現行の租税に加えて又はこれに代わつてこの条約の署名の日の後にいずれか一方の締約国において課される租税であつて現行の租税と同一の又はこれと実質的に類似

CONVENTION BETWEEN JAPAN AND IRELAND FOR THE AVOIDANCE OF DOUBLE TAXATION AND THE PREVENTION OF FISCAL EVASION WITH RESPECT TO TAXES ON INCOME

The Government of Japan and the Government of Ireland,
Desiring to conclude a Convention for the avoidance of double taxation and the prevention of fiscal evasion with respect to taxes on income,
Have agreed as follows:

ARTICLE 1

This Convention shall apply to persons who are residents of one or both of the Contracting States.

ARTICLE 2

1. The taxes which are the subject of this Convention are:
- (a) in Ireland:
 - (i) the income tax (including sur-tax) and
 - (ii) the corporation profits tax;
 - (b) in Japan:
 - (i) the income tax,
 - (ii) the corporation tax, and
 - (iii) the local inhabitant taxes.
2. This Convention shall also apply to any identical or substantially similar taxes, whether national or local, which are imposed in either Contracting State after the date of signature of this Convention in addition

するもの（国税であるか地方税であるかを問わない。）についても、また、適用する。両締約国の権限のある当局は、それぞれの国の税法について行われた改正を相互に通知する。

3 この条約は、船舶又は航空機を運用する企業に関しては、第九条2に規定する租税についても、また、適用する。

第三条

定義

1 この条約において、文脈により別に解釈すべき場合を除くほか、

(a) 「日本国」とは、地理的意味で用いる場合には、日本国の租税に関する法令が施行されている領域をいう。

(b) 「一方の締約国」及び「他方の締約国」とは、文脈により、日本国又はアイルランドをいう。

(c) 「国民」とは、

(i) アイルランドに関しては、アイルランドのすべての市民並びにアイルランドにおいて施行されている法令によつてその地位を与えられたすべての法人、組合及び団体をいう。

(ii) 日本国に関しては、日本国の国籍を有するすべての個人並びに日本国の法令に基づいて設立され又は組織されたすべての法人及び法人格を有しないが日本国の租税に關し日本国の法令に基づいて設立され又は組織された法人として取り扱われるすべての団体をいう。

to, or in place of, the existing taxes. The competent authorities of the Contracting States shall notify to each other any changes which are made in their respective taxation laws.

3. With respect to enterprises operating ships or aircraft this Convention shall also apply to the taxes referred to in paragraph 2 of Article 9.

ARTICLE 3

1. In this Convention, unless the context otherwise requires:

(a) the term "Japan", when used in a geographical sense, means the territory in which the laws relating to Japanese tax are in force;

(b) the terms "a Contracting State" and "the other Contracting State" mean Japan or Ireland, as the context requires;

(c) the term "nationals" means:

(i) in relation to Ireland, all citizens of Ireland and all legal persons, partnerships and associations deriving their status as such from the laws in force in Ireland;

(ii) in relation to Japan, all individuals possessing the nationality of Japan and all juridical persons created or organised under the laws of Japan and all organisations without juridical personality treated for the purposes of Japanese tax as juridical persons created or organised under the laws of Japan;

- (d) 「者」には、法人及び法人以外の団体を含む。
- (e) 「法人」とは、法人格を有する団体又は租税に関し法人格を有する団体として取り扱われる団体をいう。
- (f) 「一方の締約国の企業」及び「他方の締約国の企業」とは、それぞれ一方の締約国の居住者が営む企業及び他方の締約国の居住者が営む企業をいう。
- (g) 「日本国の租税」とは、日本国において課される租税で、前条¹又は²の規定によつてこの条約が適用されるものをいふ、「アイルランドの租税」とは、アイルランドにおいて課される租税で、同条¹又は²の規定によつてこの条約が適用されるものをいう。
- (h) 「租税」とは、文脈により、日本国の租税又はアイルランドの租税をいう。
- (i) 「権限のある当局」とは、日本国については、大蔵大臣又は権限を与えられたその代理者をいひ、アイルランドについては、歳入委員会又は権限を与えられたその代理者をいう。
- (j) 「国際運輸」とは、一方の締約国の企業が運用する船舶又は航空機による運送（船舶又は航空機が他方の締約国内の地点の間においてのみ運用される場合の運送を除く）をいう。
- ² 一方の締約国によるこの条約の適用上、特に定義されていない用語は、文脈により別に解釈すべき場合を除くほか、こ

- (d) the term "person" includes a company and any other body of persons;
- (e) the term "company" means any body corporate or any entity which is treated as a body corporate for tax purposes;
- (f) the terms "enterprise of a Contracting State" and "enterprise of the other Contracting State" mean respectively an enterprise carried on by a resident of a Contracting State and an enterprise carried on by a resident of the other Contracting State;
- (g) the term "Japanese tax" means tax imposed in Japan being tax to which this Convention applies by virtue of paragraph 1 or paragraph 2 of Article 2; the term "Irish tax" means tax imposed in Ireland being tax to which this Convention applies by virtue of paragraph 1 or paragraph 2 of Article 2;
- (h) the term "tax" means Japanese tax or Irish tax, as the context requires;
- (i) the term "competent authority" means, in the case of Japan, the Minister of Finance or his authorised representative and, in the case of Ireland, the Revenue Commissioners or their authorised representative;
- (j) the term "international traffic" means any transport by a ship or aircraft operated by an enterprise of a Contracting State, except when the ship or aircraft is operated solely between places in the other Contracting State.
2. As regards the application of this Convention by a Contracting State any term not otherwise defined shall, unless the context

の条約の対象である租税に関する当該一方の締約国の法令上
有する意義を有するものとする。

第四条

締約国の 居住者

1 この条約の適用上、「一方の締約国の居住者」とは、当該
一方の締約国の法令の下において、住所、居所、本店又は主
たる事務所の所在地、管理の場所その他これらに類する基準
により当該一方の締約国において課税を受けるべきものとさ
れる者をいう。この用語には、当該一方の締約国内の源泉か
ら所得を取得する場合に限り当該一方の締約国において課税
される個人を含まない。

2 1の規定によつて双方の締約国の居住者となる個人につい
ては、権限のある当局は、合意により、この条約の適用上そ
の個人が居住者であるとみなされる締約国を決定する。

3 1の規定によつて双方の締約国の居住者となる者で個人以
外のものは、その者の本店又は主たる事務所が存在する締約
国の居住者とみなす。

第五条

租税軽減 の認定

この条約に基づき所得について一方の締約国の租税が軽減さ
れる場合において、他方の締約国において施行されている法令
により、個人が、当該所得の全額についてではなく当該所得の

otherwise requires, have the meaning which it
has under the laws of that Contracting State
relating to the taxes which are the subject
of this Convention.

ARTICLE 4

1. For the purposes of this Convention, the
term "resident of a Contracting State" means,
any person who, under the laws of that Con-
tracting State, is liable to taxation therein
by reason of his domicile, residence, place
of head or main office, place of management
or any other criterion of a similar nature;
the term does not include any individual who
is liable to tax in that Contracting State
only if he derives income from sources there-
in.

2. Where by reason of the provisions of para-
graph 1 of this Article an individual is a
resident of both Contracting States, then the
competent authorities shall determine by mutual
agreement the Contracting State of which that
individual shall be deemed to be a resident
for the purposes of this Convention.

3. Where by reason of the provisions of para-
graph 1 of this Article a person other than
an individual is a resident of both Contract-
ing States, then it shall be deemed to be a
resident of the Contracting State in which its
head or main office is situated.

ARTICLE 5

Where under any provision of this Convention
income is relieved from tax of a Contracting
State and, under the laws in force in the other
Contracting State, an individual, in respect
of the said income, is subject to tax by re-

恒久的施設

うち当該他方の締約国に送金され又は当該他方の締約国内で受領した部分について租税を課されることとされているときは、この条約に基づき当該一方の締約国において認められる租税の軽減は、当該所得のうち当該他方の締約国に送金され又は当該他方の締約国内で受領した部分についてのみ適用する。

第六条

- 1 この条約の適用上、「恒久的施設」とは、事業を行う一定の場所であつて企業がその事業の全部又は一部を行っているものをいう。
- 2 「恒久的施設」には、特に、次のものを含む。
 - (a) 管理所
 - (b) 支店
 - (c) 事務所
 - (d) 工場
 - (e) 作業場
 - (f) 鉱山、採石場その他天然資源を採取する場所
 - (g) 建築工事現場又は建設若しくは組立ての工事で、十二箇月を超える期間存続するもの
- 3 「恒久的施設」については、次のことは、含まれないものとする。
 - (a) 企業に属する物品又は商品の保管、展示又は引渡しのためのみ施設を使用すること。
 - (b) 企業に属する物品又は商品の在庫を保管、展示又は引渡しのためのみ保有すること。

アイルランドとの租税（所得）条約

ference to the amount thereof which is remitted to or received in that other Contracting State and not by reference to the full amount thereof, then the relief to be allowed under this Convention in the first-mentioned Contracting State shall apply only to so much of the income as is remitted to or received in that other Contracting State.

ARTICLE 6

1. For the purposes of this Convention, the term "permanent establishment" means a fixed place of business in which the business of the enterprise is wholly or partly carried on.
2. The term "permanent establishment" shall include especially:
 - (a) a place of management;
 - (b) a branch;
 - (c) an office;
 - (d) a factory;
 - (e) a workshop;
 - (f) a mine, quarry or other place of extraction of natural resources;
 - (g) a building site or construction or assembly project which exists for more than twelve months.
3. The term "permanent establishment" shall not be deemed to include:
 - (a) the use of facilities solely for the purpose of storage, display or delivery of goods or merchandise belonging to the enterprise;
 - (b) the maintenance of a stock of goods or merchandise belonging to the enterprise solely for the purpose of

- (c) 企業に属する物品又は商品の在庫を他の企業による加工のためにのみ保有すること。
- (d) 企業のために物品若しくは商品を購入し又は情報を収集することのみを目的として、事業を行う一定の場所を保有すること。
- (e) 企業のために広告、情報の提供、科学的調査その他これらに類する準備的又は補助的な性質の活動を行うことのみを目的として、事業を行う一定の場所を保有すること。
- 4 一方の締約国の企業は、他方の締約国内で第十八条にいう芸能人又は運動家の役務を提供する活動を行う場合には、当該他方の締約国内に恒久的施設を有するものとされる。
- 5 一方の締約国内で他方の締約国の企業に代わつて行動する者（6の規定が適用される独立の地位を有する代理人を除く）は、次のいずれかの場合には、当該一方の締約国内の恒久的施設とされる。
- (a) その者が、当該一方の締約国内で、当該企業の名において契約を締結する権限を有し、かつ、これを常習的に行使する場合。ただし、その者の行動が当該企業のために物品又は商品を購入することに限られる場合は、この限りでない。
- (b) その者が、当該企業に属する物品又は商品の在庫で通常これにより当該企業に代わつて注文に応ずるためのものを当該一方の締約国内に保有する場合

- storage, display or delivery;
- (c) the maintenance of a stock of goods or merchandise belonging to the enterprise solely for the purpose of processing by another enterprise;
- (d) the maintenance of a fixed place of business solely for the purpose of purchasing goods or merchandise, or for collecting information, for the enterprise;
- (e) the maintenance of a fixed place of business solely for the purpose of advertising, for the supply of information, for scientific research or for similar activities which have a preparatory or auxiliary character, for the enterprise.
4. An enterprise of a Contracting State shall be deemed to have a permanent establishment in the other Contracting State if it carries on the activity of providing the services within that other Contracting State of public entertainers or athletes referred to in Article 18.
5. A person acting in a Contracting State on behalf of an enterprise of the other Contracting State - other than an agent of an independent status to whom the provisions of paragraph 6 of this Article apply - shall be deemed to be a permanent establishment in the first-mentioned Contracting State if:
- (a) he has, and habitually exercises in that Contracting State, an authority to conclude contracts in the name of the enterprise, unless his activities are limited to the purchase of goods or merchandise for the enterprise, or
- (b) he maintains in that Contracting State a stock of goods or merchandise belonging to the enterprise from which he regularly fills orders on behalf of the enterprise.

- 6 一方の締約国の企業は、仲立人、問屋その他の独立の地位を有する代理人でこれらの者としての業務を通常の方法で行うものを通じて他方の締約国内で事業活動を行つていゝ理由のみでは、当該他方の締約国内に恒久的施設を有するものとされることはなからぬ。
- 7 一方の締約国の居住者である法人が、他方の締約国の居住者である法人若しくは他方の締約国内で恒久的施設を通じ若しくは同じないで事業を行う法人を支配し、又はこれらに支配されているという事実のみによつては、いずれの一方の法人も、他方の法人の恒久的施設であることとはならない。

第七条

- 1 不動産から生ずる所得に対しては、当該不動産が存在する締約国において租税を課することができる。
- 2 「不動産」の定義は、当該財産が存在する締約国の法令によるものとする。不動産には、いかなる場合にも、不動産に附属する財産、農業又は林業に用いられている家畜類及び設備、不動産に関する一般法の規定の適用がある権利、不動産用益権並びに鉱石、水その他の天然資源の採取又は採取の権利の対価として料金（その金額が確定しているかどうかを問わない）を受け取る権利を含む。船舶及び航空機は、不動産とはみなさない。
- 3 1の規定は、不動産の直接使用、賃貸その他のすべての形式による使用から生ずる所得について適用する。

6. An enterprise of a Contracting State shall not be deemed to have a permanent establishment in the other Contracting State merely because it carries on business in that other Contracting State through a broker, general commission agent or any other agent of an independent status, where such persons are acting in the ordinary course of their business.
7. The fact that a company which is a resident of a Contracting State controls or is controlled by a company which is a resident of the other Contracting State, or which carries on business in that other Contracting State (whether through a permanent establishment or otherwise), shall not of itself constitute either company a permanent establishment of the other.

ARTICLE 7

1. Income from immovable property may be taxed in the Contracting State in which such property is situated.
2. The term "immovable property" shall be defined in accordance with the laws of the Contracting State in which the property in question is situated. The term shall in any case include property accessory to immovable property, livestock and equipment used in agriculture and forestry, rights to which the provisions of general law respecting immovable property apply, usufruct of immovable property and rights to variable or fixed payments as consideration for the working of, or the right to work, mineral deposits, sources and other natural resources; ships, boats and aircraft shall not be regarded as immovable property.
3. The provisions of paragraph 1 of this Article shall apply to income derived from the direct use, letting, or use in any other

4 1及び3の規定は、企業の不動産から生ずる所得及び自由職業を行うために使用される不動産から生ずる所得についても適用する。

第八条

1 一方の締約国の企業の利得に対しては、その企業が他方の締約国内にある恒久的施設を通じて当該他方の締約国内で事業を行わない限り、当該一方の締約国においてのみ租税を課することができる。一方の締約国の企業が他方の締約国内にある恒久的施設を通じて当該他方の締約国内で事業を行う場合には、その企業の利得のうち当該恒久的施設に帰せられる部分に対してのみ、当該他方の締約国において租税を課することができる。

2 一方の締約国の企業が他方の締約国内にある恒久的施設を通じて当該他方の締約国内で事業を行う場合には、当該恒久的施設が同一又は類似の条件で同一又は類似の活動を行い、かつ、当該恒久的施設を有する企業と、全く独立の立場で、取引を行う別個のかつ分離した企業であるとしたならば、当該恒久的施設が取得したとみられる利得が、各締約国において当該恒久的施設に帰せられるものとする。

3 恒久的施設の利得を決定するに当たっては、経管費及び一般管理費を含む費用でその恒久的施設のために生じたものは、その恒久的施設が存在する締約国内で生じたか他の場所において生じたかを問わず、損金に算入することを認められる。

form of immovable property.
4. The provisions of paragraphs 1 and 3 of this Article shall also apply to the income from immovable property of an enterprise and to income from immovable property used for the performance of professional services.

ARTICLE 8

1. The profits of an enterprise of a Contracting State shall be taxable only in that Contracting State unless the enterprise carries on business in the other Contracting State through a permanent establishment situated therein. If the enterprise carries on business as aforesaid, the profits of the enterprise may be taxed in that other Contracting State but only so much of them as is attributable to that permanent establishment.

2. Where an enterprise of a Contracting State carries on business in the other Contracting State through a permanent establishment situated therein, there shall in each Contracting State be attributed to that permanent establishment the profits which it might be expected to make if it were a distinct and separate enterprise engaged in the same or similar activities under the same or similar conditions and dealing at arm's length with the enterprise of which it is a permanent establishment.

3. In determining the profits of a permanent establishment, there shall be allowed as deductions expenses which are incurred for the purposes of the permanent establishment including executive and general administrative expenses so incurred, whether in the Contracting State in which the permanent

4 2の規定は、恒久的施設に帰せられるべき利得を企業の利得の総額の当該企業の各構成部分への配分によつて決定する慣行が一方の締約国において行われている場合には、その締約国が租税を課されるべき利得をその慣行とされている配分の方法によつて決定することを妨げるものではない。ただし、用いられる配分の方法は、その方法によつて得た結果がこの条に定める原則に適合するようなものでなければならぬ。

5 恒久的施設が企業のために行つた物品又は商品の単なる購入を理由としては、いかなる利得も、その恒久的施設に帰せられることはない。

6 1から5までの規定の適用上、恒久的施設に帰せられる利得は、毎年同一の方法によつて決定する。ただし、別の方法を用いることによつて正当な理由がある場合は、この限りでない。

7 他の条で別個に取り扱われている種類の所得が企業の利得に含まれる場合には、当該他の条の規定は、この条の規定によつて影響されることはない。

第九条

船舶又は航空機に係る利得

1 一方の締約国の企業が船舶又は航空機を国際運輸に運用することによつて取得する利得については、他方の締約国において租税を免除する。

2 一方の締約国の企業は、船舶又は航空機を国際運輸に運用することにつき、アイルランドの企業である場合には日本国

アイルランドとの租税（所得）条約

establishment is situated or elsewhere.

4. In so far as it has been customary in a Contracting State to determine the profits to be attributed to a permanent establishment on the basis of an apportionment of the total profits of the enterprise to its various parts, nothing in paragraph 2 of this Article shall preclude that Contracting State from determining the profits to be taxed by such an apportionment as may be customary; the method of apportionment adopted shall, however, be such that the result shall be in accordance with the principles laid down in this Article.

5. No profits shall be attributed to a permanent establishment by reason of the mere purchase by that permanent establishment of goods or merchandise for the enterprise.

6. For the purposes of the preceding paragraphs, the profits to be attributed to the permanent establishment shall be determined by the same method year by year unless there is good and sufficient reason to the contrary.

7. Where profits include items of income which are dealt with separately in other Articles of this Convention, then the provisions of those Articles shall not be affected by the provisions of this Article.

ARTICLE 9

1. Profits from the operation of ships or aircraft in international traffic carried on by an enterprise of a Contracting State shall be exempt from tax in the other Contracting State.

2. In respect of the operation of ships or aircraft in international traffic carried on by an enterprise of a Contracting State, that

における事業税、日本国の企業である場合には日本国における事業税に類似する租税でアイルランドにおいて今後課されることがあるものを免除される。

3 1 及び2の規定は、共同計算、共同経営又は国際経営共同体に参加していることによつて取得する利得についても、また、適用する。

第十条

特殊関係
企業に係
る利得

(a) 一方の締約国の企業が他方の締約国の企業の経営、支配若しくは資本に直接若しくは間接に参加している場合又は

(b) 同一の者が一方の締約国の企業及び他方の締約国の企業の経営、支配若しくは資本に直接若しくは間接に参加している場合

であつて、そのいずれの場合においても、双方の企業の間、その商業上又は資金上の関係において独立の企業の間、設けられる条件と異なる条件が設けられ又は課されるときは、その条件がないとしたならば一方の企業の利得となつたとみられる利得であつてその条件のために当該一方の企業の利得とならなかつたものに対しては、これを当該一方の企業の利得に算入して租税を課することができる。

第十一条

三六四

enterprise, if an enterprise of Ireland, shall be exempt from the enterprise tax in Japan, and, if an enterprise of Japan, shall be exempt from any tax similar to the enterprise tax in Japan which may hereafter be imposed in Ireland.

3. The provisions of paragraphs 1 and 2 of this Article shall also apply to profits derived from the participation in a pool, a joint business or in an international operating agency.

ARTICLE 10

Where

(a) an enterprise of a Contracting State participates directly or indirectly in the management, control or capital of an enterprise of an enterprise of the other Contracting State, or

(b) the same persons participate directly or indirectly in the management, control or capital of an enterprise of a Contracting State and an enterprise of the other Contracting State,

and in either case conditions are made or imposed between the two enterprises in their commercial or financial relations which differ from those which would be made between independent enterprises, then any profits which would, but for those conditions, have accrued to one of the enterprises, but, by reason of those conditions, have not so accrued, may be included in the profits of that enterprise and taxed accordingly.

ARTICLE 11

1 一方の締約国の居住者である法人が他方の締約国の居住者に支払う配当に対しては、当該他方の締約国において租税を課することができる。

2 1の配当に対しては、これを支払う法人が居住者である締約国において、その締約国の法令に従つて租税を課することができる。その租税の額は、(a)及び(b)の規定に従つて制限される。

(a) アイルランドの居住者である法人が日本国の居住者に支払う配当に対しては、アイルランドの付加税を免除する。

(b) 日本国の居住者である法人がアイルランドの居住者に支払う配当であつて、当該アイルランドの居住者にアイルランドの租税が課されるものに対しては、日本国において十パーセントを超える率の租税を課することができない。ただし、当該アイルランドの居住者が、当該配当の支払の日に先立つ六箇月の期間を通じ、当該配当を支払う法人の議決権のある全株式の少なくとも二十五パーセントを所有する法人である場合には、当該配当に対しては、日本国において十パーセントを超える率の租税を課することができない。

この2の規定は、配当に充てられる利得についての当該法人に対する課税に影響を及ぼすものではない。

3 この条において、「配当」とは、株式その他利得の分配を受ける権利（信用に係る債権を除く。）から生ずる所得及びその他の持分から生ずる所得であつて分配を行う法人が居住者である締約国の税法上株式から生ずる所得と同様に取り扱わ

1. Dividends paid by a company which is a resident of a Contracting State may be taxed in that other Contracting State.

2. However, such dividends may be taxed in the Contracting State of which the company paying the dividends is a resident, and according to the laws of that Contracting State, but the tax so charged shall be limited pursuant to the provisions of sub-paragraphs (a) and (b):

(a) dividends paid by a company which is a resident of Ireland to a resident of Japan shall be exempt from Irish sur-tax;

(b) dividends paid by a company which is a resident of Japan to a resident of Ireland who is subject to Irish tax in respect thereof shall not be chargeable to tax in Japan at a rate exceeding 15 per cent.;

Provided that where the resident of Ireland is a company which owns at least 25 per cent of the entire voting shares of the company paying such dividends during the period of 6 months immediately preceding the date of payment of the dividends, such dividends shall not be chargeable to tax in Japan at a rate exceeding 10 per cent.

This paragraph shall not affect the taxation of the company in respect of the profits out of which the dividends are paid.

3. The term "dividends" as used in this Article means income from shares or other rights, not being debt-claims, participating in profits, as well as income from other corporate rights assimilated to income from shares by the taxation laws of the Contracting State of which the company making the dis-

れるものをいう。

4 1及び2の規定は、一方の締約国の居住者である配当の受領者が、その配当を支払う法人が居住者である他方の締約国内にその配当の支払の基因となつた株式その他の持分と実質的に関連する恒久的施設を有する場合には、適用しない。この場合には、第八条の規定を適用する。

5 一方の締約国の居住者である法人が他方の締約国から利得又は所得を取得する場合には、当該他方の締約国は、その法人が当該他方の締約国の居住者でない者に支払う配当及びその法人の留保所得については、これらの配当及び留保所得の全部又は一部が当該他方の締約国内で生じた利得又は所得から成るときも、当該配当に対していかなる租税をも課することができず、また、当該留保所得に対して留保所得税を課することができない。

第十二条

1 一方の締約国内で生じ、他方の締約国の居住者に支払われる利子に対しては、当該他方の締約国において租税を課することができる。

2 1の利子に対しては、当該利子が生じた締約国において、その締約国の法令に従つて租税を課することができる。その租税の額は、当該利子の金額の十パーセントを超えないものとする。

3 この条において、「利子」とは、公債、債券又は社債（担

tribution is a resident.

4. The provisions of paragraphs 1 and 2 of this Article shall not apply if the recipient of the dividends, being a resident of a Contracting State, has in the other Contracting State, of which the company paying the dividends is a resident, a permanent establishment with which the holding by virtue of which the dividends are paid is effectively connected. In such a case, the provisions of Article 9 shall apply.

5. Where a company which is a resident of a Contracting State derives profits or income from the other Contracting State, that other Contracting State may not impose any tax on the dividends paid by the company to persons who are not residents of that other Contracting State, or subject the company's undistributed profits to a tax on undistributed profits, even if the dividends paid or the undistributed profits consist wholly or partly of profits or income arising in that other Contracting State.

ARTICLE 12

1. Interest arising in a Contracting State and paid to a resident of the other Contracting State may be taxed in that other Contracting State.

2. However, such interest may be taxed in the Contracting State in which it arises, and according to the laws of that Contracting State, but the tax so charged shall not exceed 10 per cent of the gross amount of the interest.

3. The term "interest" as used in this Article

保の有無及び利得の分配を受ける権利の有無を問わない。(c)その他のすべての種類の信用に係る債権から生じた所得及びこのような債権について償還された金額のうち融通された金額を超える部分並びにその他の所得でそれが生じた締約国の税法上貸付金から生ずる所得と同様に取り扱われるものをいう。

4 1及び2の規定は、一方の締約国の居住者である利子の受領者が、他方の締約国内に恒久的施設を有する場合において、その利子を生じた債権が当該恒久的施設を通じて行われる事業と実質的に関連を有しているときは、適用しない。この場合には、第八条の規定を適用する。

5 利子は、その支払者が一方の締約国又はその地方公共団体若しくは居住者である場合には、その締約国内で生じたものとされる。ただし、利子の支払者（一方の締約国の居住者であるかどうかを問わない）が一方の締約国内に恒久的施設を有する場合において、その利子の支払の基因となつた債務が当該恒久的施設について生じ、かつ、その利子を当該恒久的施設が負担するときは、その利子は、当該恒久的施設が存在する当該一方の締約国内で生じたものとされる。

6 支払者と受領者との間又はその双方と第三者との間の特別の関係により、支払われた利子の金額が、その支払の基因となつた債権を考慮する場合において、その関係がないとしたならば支払者及び受領者が合意したとみられる金額を超えるときは、この条の規定は、その合意したとみられる金額についてのみ適用する。この場合には、支払われた金額のうち超

means income from Government securities, bonds or debentures, whether or not secured by mortgage and whether or not carrying a right to participate in profits, and other debt-claims of every kind, and any excess of the amount repaid in respect of such debt-claims over the amount lent, as well as all other income assimilated to income from money lent by the taxation laws of the Contracting State in which the income arises.

4. The provisions of paragraphs 1 and 2 of this Article shall not apply if the recipient of the interest, being a resident of a Contracting State, has in the other Contracting State a permanent establishment and the debt-claim from which the interest arises is effectively connected with a business carried on through that permanent establishment. In such a case, the provisions of Article 6 shall apply.

5. Interest shall be deemed to arise in a Contracting State when the payer is that Contracting State itself, a local authority or a resident of that Contracting State. Where, however, the person paying the interest, whether he is a resident of a Contracting State or not, has in a Contracting State a permanent establishment in connection with which the indebtedness on which the interest is paid was incurred, and such interest is borne by such permanent establishment, then such interest shall be deemed to arise in the Contracting State in which the permanent establishment is situated.

6. Where, owing to a special relationship between the payer and the recipient or between both of them and some other person, the amount of the interest paid, having regard to the debt-claim for which it is paid, exceeds the amount which would have been agreed upon by the payer and the recipient in the absence of such relationship, the provisions of this Article shall apply only to the last-mentioned amount. In that case, the excess part of the

過分に對し、この条約の他の規定に妥當な考慮を払つた上、各締約国の法令に從つて租税を課することができる。

第十三条

ARTICLE 13

使用料

1 一方の締約国内で生じ、他方の締約国の居住者に支払われる使用料に對しては、当該他方の締約国において租税を課することができぬ。

1. Royalties arising in a Contracting State and paid to a resident of the other Contracting State may be taxed in that other Contracting State.

2 1の使用料に對しては、当該使用料が生じた締約国において、その締約国の法令に從つて租税を課することができる。その租税の額は、当該使用料の金額の十パーセントを超えないものとする。

2. However, such royalties may be taxed in the Contracting State in which they arise, and according to the laws of that Contracting State, but the tax so charged shall not exceed 10 per cent of the gross amount of the royalties.

3 この条において、「使用料」とは、文学上、美術上若しくは學術上の著作物（映画フィルム及びラジオ放送用又はテレビジョン放送用のフィルム又はテープを含む）の著作権、特許権、商標権、意匠、模型、図面、秘密方式若しくは秘密工程の使用若しくは使用の権利の対価として、産業上、商業上若しくは學術上の設備の使用若しくは使用の権利の対価として、又は産業上、商業上若しくは學術上の經驗に関する情報 の対価として受け取るすべての種類の支払金をいう。

3. The term "royalties" as used in this Article means payments of any kind received as a consideration for the use of, or the right to use, any copyright of literary, artistic or scientific work including cinematograph films and films or tapes for radio or television broadcasting, any patent, trade mark, design or model, plan, secret formula or process, or for the use of, or the right to use, industrial, commercial or scientific equipment, or for information concerning industrial, commercial or scientific experience.

4 1及び2の規定は、一方の締約国の居住者である使用料の受領者が、他方の締約国内に恒久的施設を有する場合において、その使用料を生じた権利又は財産が当該恒久的施設を通じて行われる事業と實質的に関連を有しているときは、適用しない。この場合には、第八条の規定を適用する。

4. The provisions of paragraphs 1 and 2 of this Article shall not apply if the recipient of the royalties, being a resident of a Contracting State, has in the other Contracting State a permanent establishment and the right or property giving rise to the royalties is effectively connected with a business carried on through that permanent establishment. In such a case, the provisions of Article 8 shall apply.

5 支払者と受領者との間又はその双方と第三者との間の特別の關係により、支払われた使用料の金額が、その支払の基因となつた使用、権利又は情報を考慮する場合において、その關係がないとしたならば支払者及び受領者が合意したとみられる金額を超えるときは、この条の規定は、その合意したとみられる金額についてのみ適用する。この場合には、支払われた金額のうち超過分に対し、この条約の他の規定に妥当な考慮を払つた上、各締約国の法令に従つて租税を課することができらる。

第十四条

1 第七条2に定義する不動産の譲渡から生ずる収益に対しては、当該不動産が存在する締約国において租税を課することができる。

2 一方の締約国の企業が他方の締約国内に有する恒久的施設の事業用資産の一部をなす財産（不動産を除く。）又は一方の締約国の居住者が自由職業を行うため他方の締約国において使用することができる固定的施設に係る財産（不動産を除く。）の譲渡から生ずる収益（単独に若しくは企業全体とともに行われる当該恒久的施設の譲渡又は当該固定的施設の譲渡から生ずる収益を含む。）に対しては、当該他方の締約国において租税を課することができる。ただし、一方の締約国の居住者が国際運輸に運用する船舶又は航空機及びこれらの船舶又は航空機の運用に係る財産（不動産を除く。）の譲渡によつて取得する収益については、当該一方の締約国においてのみ租税

5. Where, owing to a special relationship between the payer and the recipient or between both of them and some other person, the amount of the royalties paid, having regard to the use, right or information for which they are paid, exceeds the amount which would have been agreed upon by the payer and the recipient in the absence of such relationship, the provisions of this Article shall apply only to the last-mentioned amount. In that case, the excess part of the payments shall remain taxable according to the laws of each Contracting State, due regard being had to the other provisions of this Convention.

ARTICLE 14

1. Gains from the alienation of immovable property, as defined in paragraph 2 of Article 7, may be taxed in the Contracting State in which such property is situated.

2. Gains from the alienation of any property (other than immovable property) forming part of the business property of a permanent establishment which an enterprise of a Contracting State has in the other Contracting State or of any property (other than immovable property) pertaining to a fixed base available to a resident of a Contracting State in the other Contracting State for the purpose of performing professional services, including such gains from the alienation of such a permanent establishment (alone or together with the whole enterprise) or of such a fixed base, may be taxed in that other Contracting State. However, gains derived by a resident of a Contracting State from the alienation of ships or aircraft operated in international traffic and any property (other than immovable property) pertaining to the operation of such ships and aircraft shall be taxable only in

を課することができる。

3 1及び2に規定する財産以外の財産の譲渡から生ずる収益については、譲渡者が居住者である締約国においてのみ租税を課することができる。

第十五条

1 一方の締約国の居住者が自由職業その他これに類する独立の活動に関して取得する所得に対しては、その者が自己の活動を遂行するために通常使用することができる固定的施設を他方の締約国内に有しない限り、当該一方の締約国においてのみ租税を課することができる。その者がそのような固定的施設を有する場合には、当該所得のうち当該固定的施設に帰せられる部分に対してのみ、当該他方の締約国において租税を課することができる。

2 「自由職業」には、特に、学術上、文学上、美術上及び教育上の独立の活動並びに医師、弁護士、技術士、建築士、歯科医師及び公認会計士の独立の活動を含む。

第十六条

1 次条及び第十九条から第二十二条までの規定が適用される場合を除くほか、一方の締約国の居住者が勤務について取得する給料、賃金その他これらに類する報酬に対しては、その勤務が他方の締約国内で行われないう限り、当該一方の締約国においてのみ租税を課することができる。勤務が他方の締約

that Contracting State.

3. Gains from the alienation of any property other than those mentioned in paragraphs 1 and 2 of this Article shall be taxable only in the Contracting State of which the alienator is a resident.

ARTICLE 15

1. Income derived by a resident of a Contracting State in respect of professional services or other independent activities of a similar character shall be taxable only in that Contracting State unless he has a fixed base regularly available to him in the other Contracting State for the purpose of performing his activities. If he has such a fixed base, the income may be taxed in that other Contracting State but only so much of it as is attributable to that fixed base.

2. The term "professional services" includes, especially, independent scientific, literary, artistic, educational or teaching activities as well as the independent activities of physicians, lawyers, engineers, architects, dentists and accountants.

ARTICLE 16

1. Subject to the provisions of Articles 17, 19, 20, 21 and 22, salaries, wages and other similar remuneration derived by a resident of a Contracting State in respect of an employment shall be taxable only in that Contracting State unless the employment is exercised in the other Contracting State. If the employment is so exercised, such re-

勤務に対する報酬

役員報酬の報

国内で行われる場合には、その勤務から生ずる報酬に対しては、当該他方の締約国において租税を課することができる。

2 1の規定にかかわらず、一方の締約国の居住者が他方の締約国内で行う勤務について取得する報酬に対しては、次の(a)から(c)までのことを条件として、当該一方の締約国においてのみ租税を課することができる。

(a) その報酬の受領者が当該課税年度を通じて合計百八十三日を超えない期間当該他方の締約国内に滞在すること。

(b) その報酬が当該他方の締約国の居住者でない雇用者又はこれに代わる者から支払われること。

(c) その報酬が当該他方の締約国内に雇用者の有する恒久的施設又は固定的施設によつて負担されないこと。

3 1及び2の規定にかかわらず、一方の締約国の企業が国際運輸に運用する船舶又は航空機において行われる勤務に係る報酬に対しては、当該一方の締約国において租税を課することができ。

第十七条

一方の締約国の居住者が他方の締約国の居住者である法人の役員資格で取得する報酬に対しては、当該他方の締約国において租税を課することができる。

第十八条

アイルランドとの租税(所得)条約

muneration as is derived therefrom may be taxed in that other Contracting State.

2. Notwithstanding the provisions of paragraph 1 of this Article, remuneration derived by a resident of a Contracting State in respect of an employment exercised in the other Contracting State shall be taxable only in the first-mentioned Contracting State if:

(a) the recipient is present in that other Contracting State for a period or periods not exceeding in the aggregate 183 days in the taxable year concerned, and

(b) the remuneration is paid by, or on behalf of, an employer who is not a resident of that other Contracting State, and

(c) the remuneration is not borne by a permanent establishment or a fixed base which the employer has in that other Contracting State.

3. Notwithstanding the preceding provisions of this Article, remuneration in respect of an employment exercised aboard a ship or aircraft in international traffic the operation of which is carried on by an enterprise of a Contracting State may be taxed in that Contracting State.

ARTICLE 17

Remuneration derived by a resident of a Contracting State in his capacity as a member of the board of directors of a company which is a resident of the other Contracting State may be taxed in that other Contracting State.

ARTICLE 18

芸能人等の所得

第十五条及び第十六条の規定にかかわらず、演劇、映画、ラジオ又はテレビジョンの俳優、音楽家その他の芸能人及び運動家がこれらの者としての個人的活動によつて取得する所得に対しては、その活動が行われた締約国において租税を課することができる。

第十九条

1 次条²の規定が適用される場合を除くほか、過去の勤務につき一方の締約国の居住者に支払われる退職年金その他これに類する報酬及び一方の締約国の居住者に支払われる保険年金に対しては、当該一方の締約国においてのみ租税を課することができる。

2 「保険年金」とは、適正かつ十分な対価に应ずる給付を行う義務に基づき、終身又は特定の若しくは確定することができる期間中、所定の時期において定期的に支払われる所定の金額をいう。

第二十条

1 (a) 政府の職務の遂行として一方の締約国又はその地方公共団体に提供される役務につき、個人に対し、当該一方の締約国若しくはその地方公共団体によつて支払われる報酬(退職年金を除く)に対しては、当該一方の締約国においてのみ租税を課することができる。

(b) もつとも、当該役務が他方の締約国において提供され、

Notwithstanding the provisions of Articles 15 and 16, income derived by public entertainers, such as theatre, motion picture, radio or television artists, and musicians, and by athletes, from their personal activities as such may be taxed in the Contracting State in which these activities are exercised.

ARTICLE 19

1. Subject to the provisions of paragraph 2 of Article 20, pensions and other similar remuneration paid to a resident of a Contracting State in consideration of past employment and any annuity paid to such a resident shall be taxable only in that Contracting State.

2. The term "annuity" means a stated sum payable periodically at stated times during life or during a specified or ascertainable period of time under an obligation to make the payments in return for adequate and full consideration.

ARTICLE 20

1. (a) Remuneration, other than a pension, paid by a Contracting State or a local authority thereof to any individual in respect of services rendered to that Contracting State or local authority thereof, in the discharge of functions of a governmental nature, shall be taxable only in that Contracting State.

(b) However, such remuneration shall be

公務遂行に係る報酬

かつ、そのような報酬の受領者が次の(i)又は(ii)に該当する当該他方の締約国の居住者である場合には、その報酬に対し、当該他方の締約国においてのみ租税を課することができる。

(i) 当該他方の締約国の国民

(ii) 専ら当該役務を提供するため当該他方の締約国の居住者となつた者でないもの

2 (a) 一方の締約国又はその地方公共団体に提供される役務につき、個人に対し、当該一方の締約国若しくはその地方公共団体によつて支払われ、又は当該一方の締約国若しくはその地方公共団体によつて設立された基金から支払われる退職年金に対しては、当該一方の締約国においてのみ租税を課することができる。

(b) もつとも、そのような退職年金の受領者が他方の締約国の国民であり、かつ、当該他方の締約国の居住者である場合には、その退職年金に対し、当該他方の締約国においてのみ租税を課することができる。

3 一方の締約国又はその地方公共団体が行う営業又は事業に關連して提供される役務につき支払われる報酬及び退職年金については、第十六条から前条までの規定を適用する。

第二十一条

学生又は
事業又は
修習
者への給
付金

専ら教育又は訓練を受けるため一方の締約国内に滞在する学生又は事業修習者であつて、現に他方の締約国の居住者であり、又はその滞前の直前に他方の締約国の居住者であつたものがそ

taxable only in the other Contracting State if the services are rendered in that other Contracting State and the recipient is a resident of that other Contracting State who:

(i) is a national of that other Contracting State; or

(ii) did not become a resident of that other Contracting State solely for the purpose of performing the services.

2. (a) Any pension paid by, or out of funds created by, a Contracting State or a local authority thereof to any individual in respect of services rendered to that Contracting State or local authority thereof shall be taxable only in that Contracting State.

(b) However, such pension shall be taxable only in the other Contracting State if the pensioner is a national of and a resident of that other Contracting State.

3. The provisions of Articles 16, 17, 18 and 19 shall apply to remuneration and pensions in respect of services rendered in connection with any trade or business carried on by a Contracting State or a local authority thereof.

ARTICLE 21

Payments or income received for the purpose of his maintenance, education or training by a student or business apprentice who is present in a Contracting State solely for the purpose of his education or training and

の生計、教育又は訓練のために受け取る給付又は所得については、当該一方の締約国の租税を免除する。ただし、給付については、それが当該一方の締約国外から支払われるものである場合に限るものとし、所得については、それが当該一方の締約国内で提供される人的役務について受け取るものであつて、一課税年度において六〇万円又はアイルランド・ポンドによるその相当額を超えないものである場合に限る。

第二十二条

1 大学、学校その他の教育機関において教育を行うため一方の締約国を訪れ、二年を超えない期間滞在する教授又は教員であつて、現に他方の締約国の居住者であり、又は訪れる直前に他方の締約国の居住者であつたものは、その教育に係る報酬につき、当該一方の締約国において租税を免除される。

2 一方の締約国からの個人であつて、政府又は宗教、慈善、学術、文芸若しくは教育に関する団体から研究を主たる目的とする交付金、手当又は奨励金を受領する者として、二年を超えない期間他方の締約国内に一時的に滞在するものは、その交付金、手当又は奨励金につき、当該他方の締約国において租税を免除される。

第二十三条

一方の締約国において生ずる他方の締約国の居住者の所得で前諸条に明文の規定がないものに対しては、当該他方の締約国

その他の所得

教育又は研究に係る報酬

who is, or immediately before being so present was, a resident of the other Contracting State shall be exempt from tax of the first-mentioned Contracting State, provided that such payments are made to him from outside that first-mentioned Contracting State or that such income is received in respect of his personal services performed in that first-mentioned Contracting State in an amount not in excess of 600,000 Japanese yen or its equivalent in Irish pounds during any taxable year.

ARTICLE 22

1. A professor or teacher who visits a Contracting State for a period not exceeding two years for the purpose of teaching at a university, college, school or other educational institution in that Contracting State and who is, or was immediately before that visit, a resident of the other Contracting State shall be exempt from tax in the first-mentioned Contracting State in respect of any remuneration for such teaching.

2. An individual from one of the Contracting States who is temporarily present in the other Contracting State for a period not exceeding two years as a recipient of a grant, allowance or award for the primary purpose of conducting research from a governmental, religious, charitable, scientific, literary or educational organisation shall be exempt from tax in that other Contracting State in respect of the amount of such grant, allowance or award.

ARTICLE 23

Items of income arising in a Contracting State to a resident of the other Contracting State which are not expressly mentioned in

においてのみ租税を課することができる。

第二十四条

1 日本国内の源泉から生ずる所得につき、日本国の法令に基
づき、かつ、この条約に従つて直接に又は源泉徴収によつて
納付される日本国の租税は、アイルランド外の領域におい
て納付される租税をアイルランドの租税から控除することに
関するアイルランドの法令の規定及びこれらの規定について
後行われる改正でこれらの規定の原則に影響を及ぼさない
ものに従い、その所得について納付されるアイルランドの租
税から控除する。その控除を行うに当たり、その所得が、日
本の居住者である法人が支払う通常の配当である場合には、
その配当について納付される日本国の租税のほか、当該法
人がその利得について納付される日本国の租税を考慮に入れ
るものとす、その所得が、優先株式に対して支払われる配当
であつて優先権に係る固定率部分と利得の追加分配部分との
双方を含むものである場合には、当該配当のうち当該固定率
部分を超える部分についてのみ、当該法人がその利得につ
いて納付する日本国の租税を考慮に入れる。

2 日本国以外の国において納付される租税を日本国の租税か
ら控除することに關する日本国の法令に従ふ、

(a) 日本国の居住者がこの条約の規定に従つてアイルランド
において租税を課される所得（配当を除く）をアイルラン
ドにおいて取得するときは、その所得について納付される
アイルランドの租税の額は、その居住者に対して課される

the foregoing Articles of this Convention shall be taxable only in that other Contracting State.

ARTICLE 24

1. Subject to the provisions of the laws of Ireland regarding the allowance as a credit against Irish tax of tax payable in a territory outside Ireland and to any subsequent modifications of these provisions - which, however, shall not affect the principle hereof - Japanese tax payable under the laws of Japan and in accordance with this Convention, whether directly or by deduction, in respect of income from sources within Japan shall be allowed as a credit against any Irish tax payable in respect of that income. Where such income is an ordinary dividend paid by a company resident in Japan the credit shall take into account (in addition to any Japanese tax payable in respect of the dividend) the Japanese tax payable by the company in respect of its profits, and, where it is a dividend paid on participating preference shares and representing both a dividend at the fixed rate to which the shares are entitled and an additional participation in profits, the Japanese tax so payable by the company shall likewise be taken into account in so far as the dividend exceeds that fixed rate.

2. Subject to the laws of Japan regarding the allowance as a credit against Japanese tax of tax payable in any country other than Japan:

(a) Where a resident of Japan derives income (other than a dividend) from Ireland which may be taxed in Ireland in accordance with the provisions of this Convention, the amount of Irish tax payable in respect of that income

日本国の租税から控除する。ただし、その控除の額は、日本国の租税の額のうちその所得に対応する部分を越えないものとする。

(b) アイルランドにおいて生ずる所得が、アイルランドの居住者である法人がその議決権のある株式又はその発行した全株式の少なくとも二十五パーセントを所有する日本国の居住者である法人に対して支払う配当である場合には、日本国の租税からの控除を行うに当たり、当該配当を支払う法人がその利得について納付するアイルランドの租税を考慮に入れる。

(c) (b)に規定する控除の適用上、アイルランドの経済開発を促進するための特別の奨励措置であつてこの条約の署名の日に実施されているもの又はその修正若しくはそれへの追加としてアイルランドの租税に関する法令に将来導入されることがあるものに従つて一定の期間免除又は軽減が行われないとしたならば納付されたであろうアイルランドの租税は、法人によつて納付されたものとみなす。ただし、両締約国の政府が当該奨励措置によつて納税者に与えられる特典の範囲について合意することを条件とする。

3 この条の規定の適用上、アイルランドの居住者である個人が連合王国内の源泉から取得する所得は、当該所得に対し連合王国の所得税が課されない場合には、アイルランド内の源泉から生ずる所得とみなす。

shall be allowed as a credit against the Japanese tax imposed on that resident. The amount of credit, however, shall not exceed that part of the Japanese tax which is appropriate to that income.

(b) Where the income derived from Ireland is a dividend paid by a company which is a resident of Ireland to a company which is a resident of Japan and which owns not less than 25 per cent either of the voting shares of the company paying the dividend, or of the total shares issued by that company, the credit shall take into account the Irish tax payable by the company paying the dividend in respect of its profits.

(c) For the purposes of the credit referred to in sub-paragraph (b) of this paragraph, there shall be deemed to have been paid by a company the Irish tax which would have been payable if the Irish tax had not been wholly relieved or reduced for a limited period of time in accordance with the special incentive measures designed to promote economic development in Ireland effective on the date of signature of this Convention, or which may be introduced in future in the Irish tax laws in modification of, or in addition to, such measures:

Provided that the scope of the benefit accorded to the taxpayer by those measures shall be agreed to by the Governments of both Contracting States.

3. For the purposes of this Article, income derived from sources in the United Kingdom by an individual who is a resident of Ireland shall be deemed to be income from sources in Ireland if such income is not subject to United Kingdom income tax.

第二十五条

個人に對する人的控除、救済及び輕減

- 1 アイランドの居住者である個人は、日本国の所得税に關し、日本国の居住者でない日本国民が受けることがある人的控除、救済及び輕減と同一の人的控除、救済及び輕減を受ける權利を有する。
- 2 日本国の居住者である個人は、アイランドの所得税に關し、アイランドの居住者でないアイランドの市民と同一の人的控除、救済及び輕減を受ける權利を有する。

第二十六条

- 1 一方の締約国の国民は、他方の締約国において、同様の状況にある当該他方の締約国の国民が課されており又は課されることがある租税又はこれに關連する要件以外の又はこれらよりも重い租税又はこれに關連する要件を課されることはな

- 2 一方の締約国の企業が他方の締約国内に有する恒久的施設に對する租税は、当該他方の締約国において、同様の活動を行う当該他方の締約国の企業に對して課される租税よりも不利に課されることはない。

この規定は、一方の締約国に對し、自国の居住者に認める租税上の人的控除、救済及び輕減を他方の締約国の居住者に認めることを義務づけるものと解してはならない。

- 3 一方の締約国の企業であつてその資本の全部又は一部が他

アイランドとの租税（所得）条約

ARTICLE 25

1. Individuals who are residents of Ireland shall be entitled to the same personal allowances, reliefs and reductions for the purposes of Japanese income tax as Japanese nationals not resident in Japan may be entitled.

2. Individuals who are residents of Japan shall be entitled to the same personal allowances, reliefs and reductions for the purposes of Irish income tax as Irish citizens who are not resident in Ireland.

ARTICLE 26

1. The nationals of a Contracting State shall not be subjected in the other Contracting State to any taxation or any requirement connected therewith which is other or more burdensome than the taxation and connected requirements to which nationals of that other Contracting State in the same circumstances are or may be subjected.

2. The taxation on a permanent establishment which an enterprise of a Contracting State has in the other Contracting State shall not be less favorably levied in that other Contracting State than the taxation levied on enterprises of that other Contracting State carrying on the same activities. This provision shall not be construed as obliging a Contracting State to grant to residents of the other Contracting State any personal allowances, reliefs and reductions for taxation purposes which it grants to its own residents.

3. Enterprises of a Contracting State, the capital of which is wholly or partly owned

方の締約国の一又は二以上の居住者により直接又は間接に所有され又は支配されているものは、当該一方の締約国において、当該一方の締約国の類似の他の企業が課されており又は課されることがある租税又はこれに関連する要件以外又はこれらよりも重い租税又はこれに関連する要件を課されることとはなり。

4 この条の規定は、アイルランドに対し、次の法律の規定に従つて認められる軽減又は免除をアイルランドの法人に関する法令に基づいて設立され、かつ、所得税の課税上アイルランドの居住者である法人以外の法人に認めることを義務づけるものと解してはならない。

- (i) ある種の鉱山の利得に対する租税の一時的減免に関する千九百五十六年財政法（千九百五十六年第八号）（その後の改正を含む。）
- (ii) 千九百六十七年所得税法（千九百六十七年第六号）（第二十五部第二章（その後の改正を含む。））

5 この条において、「租税」とは、すべての種類の税をいう。

第二十七条

1 一方の締約国の居住者は、いずれか一方の又は双方の締約国の措置によりこの条約に適合しない課税を受け又は受けるに至ると認められる場合には、それらの締約国の法令で定める救済手段とは別に、自己が居住者である締約国の権限のある当局に対しその事案について申立てをすることができらる。

2 権限のある当局は、1の申立てを正当と認めるが、適当な

or controlled, directly or indirectly, by one or more residents of the other Contracting State, shall not be subjected in the first-mentioned Contracting State to any taxation or any requirement connected therewith which is other or more burdensome than the taxation and connected requirements to which other similar enterprises of that first-mentioned Contracting State are or may be subjected.

4. The provisions of this Article shall not be construed as obliging Ireland to grant to any company other than a company created under the company laws of Ireland and resident therein for the purposes of the income tax, any relief or exemption allowed in accordance with the provisions of:

- (i) the Finance (Profits of Certain Mines) (Temporary Relief from Taxation) Act, 1956 (No. 8 of 1956), as subsequently amended, or
- (ii) Chapter II of Part XXV of the Income Tax Act, 1967 (No. 6 of 1967), as subsequently amended.

5. In this Article the term "taxation" means taxes of every kind and description.

ARTICLE 27

1. Where a resident of a Contracting State considers that the actions of one or both of the Contracting States result or will result for him in taxation not in accordance with this Convention, he may, notwithstanding the remedies provided by the national laws of those Contracting States, present his case to the competent authority of the Contracting State of which he is a resident.

2. The competent authority shall endeavour,

情報の交換

- 3 両締約国の権限のある当局は、この条約の解釈又は適用に關して生ずる困難又は疑義を合意によつて解決するように努める。両締約国の権限のある当局は、また、この条約に定めのない場合における二重課税を除去するため、相互に協議することができる。
- 4 両締約国の権限のある当局は、2及び3の合意に達するため、直接相互に通信することができる。

第二十八条

- 1 両締約国の権限のある当局は、この条約を実施するため、この条約の対象である租税に關して詐欺を防止するため、又はこれらの租税に關して脱法に対処することを目的とする法規を実施するために必要な情報（両締約国のそれぞれの税法に基づき行政の通常運営において入手することができるもの）を交換する。このようにして交換された情報は、秘密として取り扱うものとし、この条約の対象である租税の賦課若しくは徴収又はこれらの租税に關する不服申立てについての決定に關与する者（裁判所及び行政機関を含む。）以外のいかなる者（裁判所及び行政機関を含む。）にも開示してはならない。
- 2 1の規定は、いかなる場合にも、一方の締約国に対し、次

if the objection appears to it to be justified and if it is not itself able to arrive at an appropriate solution, to resolve the case by mutual agreement with the competent authority of the other Contracting State, with a view to the avoidance of taxation not in accordance with this Convention.

3. The competent authorities of the Contracting States shall endeavour to resolve by mutual agreement any difficulties or doubts arising as to the interpretation or application of this Convention. They may also consult together for the elimination of double taxation in cases not provided for in this Convention.

4. The competent authorities of the Contracting States may communicate with each other directly for the purpose of reaching an agreement in the sense of the preceding paragraphs.

ARTICLE 28

1. The competent authorities of the Contracting States shall exchange such information (being information which is at their disposal under their respective taxation laws in the normal course of administration) as is necessary for the carrying out of this Convention or for the prevention of fraud or the administration of statutory provisions against legal avoidance in relation to taxes which are the subject of this Convention. Any information so exchanged shall be treated as secret and shall not be disclosed to any persons other than persons (including a court or administrative body) concerned with the assessment or collection of, or the determination of appeals in relation to, the taxes which are the subject of this Convention.

2. In no case shall the provisions of paragraph

のこゝを行ふ義務を課するものと解してはならない。

(a) 当該一方の締約国又は他方の締約国の法令又は行政上の慣行に抵触する行政上の措置をとること。

(b) 当該一方の締約国又は他方の締約国の法令の下において又は行政の通常の運営において入手することができない資料を提供すること。

(c) 営業上、事業上、産業上、商業上若しくは職業上の秘密若しくは取引の過程を明らかにするような情報又は公開することが公の秩序に反するような情報を提供すること。

第二十九条

外交官又は領事官の特権との関係

この条約のいかなる規定も、国際法の一般原則又は特別の協定に基づく外交官又は領事官の租税上の特権に影響を及ぼすものではない。

第三十条

1 この条約は、批准されなければならない。批准書は、できる限り速やかにダブリンで交換されるものとする。

2 この条約は、批准書の交換の日の後三十日目の日に効力を生ずるものとし、次のものについて適用する。

(a) アイルランドにおいては、

(i) この条約が効力を生ずる年の四月六日以後に開始する各賦課年度の所得税（付加税を含む。）

1 of this Article be construed so as to impose on a Contracting State the obligation:

(a) to carry out administrative measures at variance with the laws or the administrative practice of that or of the other Contracting State;

(b) to supply particulars which are not obtainable under the laws or in the normal course of the administration of that or of the other Contracting State; or

(c) to supply information which would disclose any trade, business, industrial, commercial or professional secret or trade process, or information, the disclosure of which would be contrary to public policy.

ARTICLE 29

Nothing in this Convention shall affect the fiscal privileges of diplomatic or consular officials under the general rules of international law or under the provisions of special agreements.

ARTICLE 30

1. This Convention shall be ratified and the instruments of ratification shall be exchanged at Dublin as soon as possible.

2. This Convention shall enter into force on the thirtieth day after the date of the exchange of instruments of ratification and shall have effect:

(a) in Ireland:

(i) as respects income tax (including sur-tax) for any year of assessment beginning on or after the

条約の終
了及び適
用の終了
時期

(ii) この条約が効力を生ずる年の四月一日以後に開始する各事業年度の法人利潤税及びその日に現に継続中の各事業年度の残存期間の法人利潤税

(b) 日本国においては、

この条約が効力を生ずる年の一月一日以後に開始する各課税年度の所得

第三十一条

この条約は、無期限に効力を有する。ただし、いずれの一方の締約国も、この条約の効力発生の日から五年の期間が満了した後開始する各年の六月三十日以前に、外交上の経路を通じて他方の締約国に対し書面による終了の通告を行うことができ。この場合には、この条約は、次のものについて効力を失う。

(a) アイルランドにおいては、

(i) その通告が行われた年の翌年の四月六日以後に開始する各賦課年度の所得税（付加税を含む。）

(ii) その通告が行われた年の翌年の四月一日以後に開始する各事業年度の法人利潤税及びその日に現に継続中の各事業年度の残存期間の法人利潤税

6th April of the calendar year in which this Convention enters into force;

(ii) as respects corporation profits tax, for any accounting period beginning on or after the 1st April of the calendar year in which this Convention enters into force and for the unexpired portion of any accounting period current at that date;

(b) in Japan:

as respects income for any taxable year beginning on or after the 1st January of the calendar year in which this Convention enters into force.

ARTICLE 31

This Convention shall remain in force indefinitely, but either Contracting State may, on or before the 30th June in any calendar year beginning after the expiration of a period of five years from the date of its entry into force, give to the other Contracting State, through diplomatic channels, written notice of termination. In such event, this Convention shall cease to have effect:

(a) in Ireland:

(i) as respects income tax (including sur-tax) for any year of assessment beginning on or after the 6th April in the calendar year next following that in which the notice is given;

(ii) as respects corporation profits tax for any accounting period beginning on or after the 1st April in the calendar year next following that in which the notice is given and for the unexpired

(b) 日本国においては、
その通告が行われた年の翌年の一月一日以後に開始する
各課税年度の所得

以上を証拠として、下名は、各自の政府から正当に委任を受
けて、この条約に署名した。

千九百七十四年一月十八日に東京で、本書二通を作成した。

日本国政府のために

大平正芳

アイルランド政府のために

クリストファー・P・フォガーティ

portion of any accounting period
current at that date;

(b) in Japan:

as respects income for any
taxable year beginning on or
after the 1st January of the
calendar year next following
that in which the notice is
given.

IN WITNESS WHEREOF the undersigned, being
duly authorized thereto by their respective
Governments, have signed this Convention.

Done in duplicate at Tokyo on the eighteenth
day of January, 1974.

For the Government of Japan:

(Signed) Masayoshi Ohira

For the Government of Ireland:

(Signed) Christopher P. Fogarty

(参考)

この条約は、我が国とアイルランドとの所得に対する租税に関する二重課税の回避及び脱税の防止のために締結したものである。